

森林ボランティア—身近なところから生物多様性に役立とう！

河合 篤（こうべ森の学校 事務局長）

私たちの「こうべ森の学校」は、神戸の再度公園周縁で活動する森林ボランティア団体です。

設立は、2003年、本年9年目を迎えます。月1回の定例会（土又は日）と火曜、木曜、土曜に森の手入れを行っています。この8年で約20haの山林の整備を行ない、延べ参加者は概ね10,000人にのぼります。会の運営を担当するのは30名の世話役（スタッフ）です。

現在の活動は次の7つです。①除間伐や植樹による森林再生、②炭焼き、木工、キノコ栽培など間伐材活用、③散策路整備（樹名札、道の改修新設）、④自然学習支援（自然観察、森林整備体験）、⑤東お多福山再生など他団体活動への参画、⑥森林整備のスキルアップ研修、⑦会報刊行などの広報活動。

一般に森林ボランティア活動がうまく継続できる条件は次の3つといわれています。①安定した活動地の確保、②志を同じくするボランティアの存在、そして③運営や技術、資金面を含めたサポート体制です。私たちの団体は神戸市の肝いりで誕生しました。設立当初から、活動の場として神戸市市有林の提供を受け、サポート体制は活動資金提供と組織的な活動参加の面では伊藤ハム(株)、参加者の技術習得や組織運営面は市森林整備事務所の全面的な支援が約束されていました。神戸市の公募に応募したお互いに面識もない素人のボランティア数十人が初期のメンバーでした。県下に多くの森林ボランティア団体がありますが、私たちはきわめて恵まれた環境下でスタートできた団体だと思います。

設立当初から3年程度は、実践を通じて基本的な伐採技術の習得をする期間でした。一方、森林整備事務所の支援を受けながら2005年に現在活動拠点となっているログハウス作りに取り組みました。完成までの2年7ヶ月にわたる建設活動がメンバーの一体感・信頼感を高め、「志を同じくするボランティア」のレベルに高めたのではないかと思います。その一体感をベースにウィークデーの森林整備や木工工作、自然観察、炭焼き、育苗と植樹、キノコ育種など森の恵みを享受するさまざまな活動にも範囲を広げて現在に至っています。ここまでの間、日常活動としては除伐間伐による森林再生と育苗・植樹を通じた自生植生の復活、一方、間伐材の有効利用として自らも楽しみつつ参加者を増やす目的でのペンダント作りなども実施してきました。

メンバーや森林整備事務所からの問題提起を受けて1年ほど前より、「生物多様性を高める」という視点で活動を複線化しつつあります。除伐間伐等の森林整備が主体ではありますが、従来は伐採除去の対象であったツタ類の植生保護区の設置、固有草木類の調査と保護、伐採効果の検証と土に埋もれている種の発現観察のためのコドラートの設置。又、再度公園一帯は市民の憩いの場でもあり散策しやすさや美観も必要ですので、間伐材の利用では巣箱、案内板作成など個人の楽しみ中心から「みんなの里山公園」のための活動に重点を移すことにしました。

これらの取組に着手してまだ1年ほどです。まだまだ未熟な集団です。これからもトライ&エラーを重ねつつも、樹木・蝶・昆虫・鳥などについて知識の幅を広げ、「多様な生物の住める森づくり＝私たちの子、孫たちに豊かな緑を残す活動」に息長く取り組んでいきたいと考えています。

そのためにも、多様な生物を抱擁できる豊かな森づくりに参加するボランティアを求めています。

高い専門性をお持ちの方はもちろん歓迎です。一方、楽しみながら少しでも役に立ちたいとの気持ちさえあれば自ずと技術や知識はついてきます。若い方も含めて初心者の方はもっと大歓迎です。本日の話に関心を持たれたら是非「こうべ森の学校」まで問い合わせ下さい。